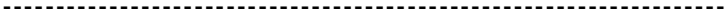




DVD



A  
B

	[ 28 3 13 ]	
[		]
[		]
[		]
[		]
PA	[ PPT ]	
		(9 30)

なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。(ローマ書一章十七節)



東日本大震災から5年が経とうとしています。あの激しい揺れとテレビに映し出された津波の映像、ボランティアで訪ねた福島で見た津波で破壊しつくされた町並みを忘れることは出来ませんし、忘れてはいけないのでしょうか。何故なら今なお、あの津波と福島原発の放射能による被害は終わっていないのですから、仮設住宅(いつまで仮設のままなのか?)では孤独死を多くの方が迎えており、福島では原因不明(本気でそう思っている人がいるのだろうか?あのお医者様たちは正気なのでしょうか?)の甲状腺がん及び疑いの子どもが163人になりました。私達は忘れてはいけない、今なお生命が、健康が、喜びが奪われている人々がいるのですから。ですから、せめて今週は祈りたい!癒しが彼の地にありますように。子ども達の健康が守られますように。生き生きと暮らせる街が再建出来ますようにと。

大和の副牧師の1人坪井先生のご実家は福島県郡山市にある教会です。お父様の坪井永人先生はその地では知らぬ人がいない程の豪商・坪井木材の息子さんでした。ご自身は日本で初めてツーバーフォー工法の住宅販売をして成功されていました。しかし、本体の坪井木材の倒産に巻き込まれる形で何もかも失ったそうです。でも成功していた時は、昼間からお酒を飲んでぐだを巻いているクリスチャン?!でした。しかし倒産後、聖霊体験し献身されて夜学の神学校(私の母校の大先輩になります。)に通われて牧師になりました。3.11の後は、教会をご長男に任せて子どもを持つお母さんと、妊婦さんのために安全な水を届ける働きを始められました。行政が水道水が安全だと言っても、あの甲状腺がんの頻発した状況に対する政府側の態度を見るならば、本当なのだろうか?と疑ってしかるべきでしょう。しかし、現地に住んでいの方々さえも「もう忘れたい」と現実の危機から目を逸らしたいと思ってしまうのが現実です。でも永人先生達「FUKUSIMA いのちの水プロジェクト」は忘れる事を拒み、昨年までに4,000,000本以上のペットボトルを配っています。今週と来週、専用の献金箱を置きますので、こちらにお捧げしたいと願われる方はご協力ください。

私は火曜日からイスラエル研修に行って参ります。3月11日はユダの荒野に行く予定です。そこで私も東日本のために祈りを捧げてきます。またエルサレムの嘆きの壁で教会の皆さんのためにもお祈りして参ります。祈禱課題がありましたら、ぜひポストに。

瀬戸カルバリーチャペル担任牧師 菅原 岳